

会 議 録

会議の名称	令和元年度 第2回和泉市外部評価委員会 (和泉市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び和泉市総合計画に係る事務事業の評価等に関する外部評価委員会)
開催日時	令和元年6月5日(水) 午後1時30分から午後3時まで
開催場所	和泉市コミュニティセンター1階中集会室
出席者	<p>【委員】 (順不同) 下村委員長、小長谷副委員長、山中委員、篠原委員、辻本委員</p> <p>【事務局】 石川副市長、藤原副市長、森吉参与、小泉市長公室長、藤原市長公室理事、山崎政策企画室長、佐々木企画経営担当課長、奥企画経営担当総括主幹、山口政策推進担当総括主査、和田企画経営担当主事、堀田企画経営担当主事</p>
会議の議題	<p>1 開会あいさつ</p> <p>2 事業の評価 (1) 美術館を核とした賑わい創出・交流人口拡大事業 (2) 住み慣れた地域で暮らし続けるための拠点づくり事業 (3) 新商店街におけるにぎわい創出事業</p> <p>3 閉会あいさつ</p>
会議の要旨	平成30年度に実施した交付金事業について、事業の評価を行った。
会議録の作成方法	<input checked="" type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の確認方法	<input type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他()
その他の必要事項	傍聴者1名

審 議 内 容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 開会あいさつ

□司会者（政策企画室 山崎室長）

それでは、定刻となりましたので、ただいまから、第2回和泉市外部評価委員会を開催させていただきます。本日は、委員の皆様方におかれましては公私ご多用のところ、本委員会にご出席賜り、厚く御礼申し上げます。それでは、会議を始めさせていただく前にお配りしております資料の確認をさせていただきますと思います。

まずは、事前に配布させていただいております赤色のファイルのほか、本日、机上配布させていただいております

○次第

○資料1 事業評価の項目

以上でございますが、資料の不足等はありませんでしょうか。

ここで、会議録の作成についてご説明させていただきます。本会議の会議録作成のため、発言内容を録音させていただきますが、会議録作成後は、録音内容を消去いたします。録音のため、お手数ですが、ご発言の際は、マイクのご使用をお願いいたします。また、会議録について、発言者の氏名を公表して作成しますことをご了承願います。

それでは、会議の進行につきましては、下村委員長にお願いしたいと存じます。よろしく願いいたします。

2 事業の評価

■下村委員長

みなさん、おはようございます。さて、前回の会議では、評価対象となっている3事業について、事業所管課からの事業概要説明、そして、評価を行うための質疑応答を行ってまいりました。本日の会議では、評価対象事業についての評価を実施してまいりたいと思います。

評価の実施方法については、本日、配布されている「資料1 事業評価の項目」に記載されている評価項目に基づき、委員の皆さんの評価をお聞きしたいと思います。

「評価①」については、最も多かったご意見を本委員会の「評価」とし、その理由も本委員会の答申に盛り込んでまいりたいと考えております。また、「評価②」や「今後の取組みに対するアドバイス」については、委員皆様のご意見を取りまとめ、答申に盛り込んでまいりたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

【美術館を核とした賑わい創出・交流人口拡大事業】

■下村委員長

それでは、一つ目の事業「美術館を核とした賑わい創出・交流人口拡大事業」について、評価してまいりたいと思います。まず、「平成30年度の取組みに対する評価」について、有効であったか、そ

れとも、有効とは言えなかったのかを評価いただき、併せて、その理由についてご発言いただきたいと思います。

委員の皆様から順にご意見をいただきたいと思いますので、まず、山中委員からお願いいたします。

■山中委員

私の評価としましては、「1. 取り組んだ内容は、有効であった」です。その理由としましては、モニタリングツアーやタウンマガジンの作成、SNSでの情報拡散を図った大学生向けのワークショップなど、地域の魅力を発信するため、幅広い手段で情報発信に取り組んでおり、KPIはクリア出来ませんでした。平成27年度に比べると5%程度増加しており、エリア内への来訪者数増加に一定寄与したと考えております。

また、パブリックアートの制作によりミュージアムタウンとしての魅力が創出されたほか、地元特産品開発など、地域住民との協働感を打ち出したことで、エリア内への来訪者の増加にもつながり、久保惣記念美術館の来訪者数達成に少なからず貢献したと考えております。

■下村委員長

ありがとうございました。引き続きまして、辻本委員、お願いいたします。

■辻本委員

私の評価としましては、「1. 取り組んだ内容は、有効であった」です。その理由につきましては、和泉市へのツアー企画が商品化されたことで、旅行者の増加と旅行者による和泉市の情報発信機会の創出につながったと評価できるからです。また、一部の目標値は未達成であったものの、モニタリングツアーや2回のタウンマガジンの発行、パブリックアートの配置、特産品の開発など、ブランディング化に向けて、多面的に取り組んだことで、美術館の入館客数の増加に寄与したと考えております。

■下村委員長

ありがとうございました。引き続きまして、篠原委員、お願いいたします。

■篠原委員

私の評価としましては、「1. 取り組んだ内容は、有効であった」です。その理由につきましては、エリア内主要施設への来場者数については、残念ながら目標値には届いていませんが、27年度の実績を上回っており、上向きのトレンドにある点は評価できると考えております。久保惣記念美術館については、様々な施策に取り組み、目標値の28,000人を大きく超えており、素晴らしい実績であると考えております。タウンマガジンについては、桃山学院大学との連携をはじめ、市民が主体性を持って参加できるコンテンツを盛り込むなど、内容面での工夫をしながら制作している点を評価いたします。

■下村委員長

ありがとうございます。引き続きまして、小長谷副委員長、お願いいたします。

■小長谷副委員長

私の評価としましては、「1. 取り組んだ内容は、有効であった」です。KPIについては、各委員が既におっしゃっているとおりであると思います。久保惣記念美術館は、もともと非常に実力がある

施設ですので、これを核にしてまちづくりを進めることは、アート・文化のまちづくりを基本とする創造都市戦略の立場からも適当であると考えます。また、教育機関や地元とコラボレーションして、最終的には地元に移管していくというのが普遍的な成功のパターンでありまして、タウンマガジンの作成を学生と連携するなどの取組みについては、ますます進めていくべきだと考えております。

■下村委員長

ありがとうございます。

最後に私の評価としましては、「2. 取り組んだ内容は、有効とは言えなかった」です。今回の評価が、「有効」又は「有効でない」の二択であるため、難しいところでしたが、厳しい評価としました。

事業全体として、より具体的な目標と取組みを設定してまちづくりを推進していくことが必要だったと思います。例えば、パブリックアートでは、設置場所や設置数、アートの形態などについて、具体的な戦略を描いて構築するべきであったと考えます。

観光路線バスの廃止については、実績を踏まえるとやむを得ないということも理解できました。また、アピール課が、担当課としてミュージアムタウン構想の推進に積極的に取り組んでおられることは、よく理解できましたし、久保惣記念美術館についても、市民サービスの充実や展覧会の充実に積極的に取り組まれていることがわかりました。しかし、ミュージアムタウン構想を進めていくためには、一層各課が協力しながら、回遊性の向上や周知に取り組むことが必要だと考えます。

なお、KPIにつきましては、設定した全ての目標を達成することができていないので、厳しく評価いたしました。

それでは、次に、「交付金事業全体に対する評価」について、「交付金事業における成果・実績で評価できること」や「交付金事業において、改善すべきであったと考えること」などの意見についてご発言ください。また、今後の取組みに対するアドバイスがある方は、併せてご発言をお願いします。

山中委員お願いいたします。

■山中委員

本事業について、パブリックアートの制作や地元特産品の開発は、エリアの魅力向上に寄与し、集客力の向上に貢献したという点は評価できると考えております。また、インフラ整備、SNSを活用した情報発信も、集客の補助的な役割を担うという点で有意義であったと考えております。

次に、改善すべきであったことについては、パブリックアートなど、様々な新しい取組みを実施されていますが、それに加えて、既存の観光資源や、人造真珠・ガラス細工などの地元特産品を活用してブランディング化を図るという視点も必要であったと考えております。

今後の取組みに対するアドバイスについては、これまでの取組みで美術館への周知が促進され、入館者数が増加するなど、一定の効果が認められたため、今後も一層のブランディング化を図っていただきたいと思います。例えば、パブリックアートは、初期コストを要するものの、ランニングコストは比較的低コストに抑えられると思いますので、目玉になるような話題性のある作品を制作して、SNS等で情報発信することで、大幅に来訪者を増加できる可能性もあると思います。

■下村委員長

ありがとうございました。引き続きまして、辻本委員、お願いいたします。

■辻本委員

本事業については、パブリックアートの配置等のハード面の取組みと、タウンマガジンやイベント、モニタリングツアー等のソフト面の取組みを複合的に展開したことが評価できると考えております。また、今回の事業では、大学や地域住民を含む関係者等と一緒に取り組んだことによる教育的効果も期待でき、今後の取組みに活かすことができると考えております。特産品の開発について、3点の新商品の開発が実現できたことも評価できます。特に日本酒は完売したということなので、継続した商品の製造が望まれます。

次に、改善すべきであったことについて、「観光路線実証実験バスの運行」では、平成29年度の利用者数が、目標値の1便当たり7人を大幅に下回る4.3人であったことから、この時点で利用者ニーズの調査を行い、平成30年度には急行便の創設だけでなく、告知方法の見直しや経路の変更、料金設定の柔軟化などの改善策をとるべきであったと思います。

今後の取組みに対するアドバイスとしては、訪日観光客の3分の1が関空を利用しており、和泉市は関空から30分の距離にあることから、その強みを活かしたアプローチを行っていくべきだと考えます。たとえば、関空から帰国するフライト時間待ちの観光客に対して、3時間から半日程度の美術館を組み込んだツアーをプロモーションするなどの方策が考えられます。また、美術館の訪日観光客を増加させるためには、まずHPのアクセス履歴などデータを収集・分析し、どの国の観光客に関心を持たれているのかを把握した上で、重点的に取り組む対象の国を設定し、マーケティング・コミュニケーションを行う必要があると考えております。その際には、訪日観光客の誘致に成功している高野山など地域との連携イベントを企画するなどが有効だと思います。

■下村委員長

ありがとうございました。引き続きまして、篠原委員、お願いいたします。

■篠原委員

本事業については、久保惣記念美術館のホームページ等の多言語化にも取り組んでおり、現時点では外国人の来場者数に結びついていないものの、インバウンド対応への準備を推進している点は評価できると考えております。

次に、改善すべきであったことについては、タウンマガジンや久保惣記念美術館の多言語化等の取組みは評価できますが、ユーザーにその存在を知ってもらうための取組みが、まだ弱いと思います。来場者数も増加しており、施設のポテンシャルの高さは証明されているので、取り組んだコンテンツをどう発信して、周知していくかが課題だと考えます。また、パブリックアートを市内各所に設置できたことから、周遊イベントなど、人々の行動を支援するような仕組み作りにも取り組んでほしいと思います。

今後の取組みに対するアドバイスですが、イベントなどについては、各メディアへ積極的なアプローチをすべきと考えております。また、タウンマガジンなどの制作物を作る場合は、いかに市民に関わってもらうかが重要です。市民が主体性を持って関わるのが、シビックプライドの醸成において大切な点で、持続性のあるプロモーションを実施するためには、市民に主体性を持ってもらうことが重要だと考えます。

■下村委員長

ありがとうございます。引き続きまして、小長谷副委員長、お願いいたします。

■小長谷副委員長

今の代表的な都市政策として、創造都市的戦略と「コンパクトシティ政策」があり、後者に基づく施策が第2のマスタープランとも言える「立地適正化計画」であります。コンパクトシティの観点から、ミュージアムタウンと木楽座ストリートは、新たに市民の憩いの場をつくり、集客を目指すという非常に素晴らしい事業だと思います。しかしながら、政策の方向性は間違っていないものの、KPIの設定の問題と計測が非常に困難であるように感じるため、私の評価については、KPIの達成状況などはあまり考慮していません。

現在、観光の概念が激変しており、旧来型の大規模有名観光に飽きた人が自分の趣味・テーマで観光する「ニューツーリズム」という観光が増加しています。そのため、必ずしも農村側が集客圏の後背地になるのではなく、都市中心部から目新しいコンテンツを求めた観光客が来訪するので、SNSを活用するなどして、大阪側に広報すべきであると考えております。ニューツーリズムとインバウンドの誘致に関して、久保惣記念美術館とミュージアムタウンは、力のあるコンテンツであると考えております。

■下村委員長

ありがとうございます。

私の評価でございますが、パブリックアートの制作について、多くのアーティストに参画いただき、今後アートを活用したまちづくりを推進するための人材面のつながりをつくることのできたと考えております。

次に、改善すべきであったこと及び今後のアドバイスですが、ミュージアムタウン構想については、行政の関係部局同士の連携はもちろん、地域の企業や団体との連携も不可欠であるため、推進体制の更なる強化が必要であったと考えております。また、具体的な目標や実施計画を設定し、計画性を持ってアートの設置や回遊性の確保に取り組むべきであったと考えております。

それでは、皆様からいただいたご意見を取りまとめたいと思います。

取組みに対する評価としては、5名中4名の委員が「有効であった」という評価でしたので、本委員会としては、「有効であった」を本事業の評価といたします。

その理由を整理いたしますと、

○タウンマガジンについては、桃山学院大学を含めた地元の教育機関と連携しており、市民が参加できるコンテンツが盛り込まれていることなど、工夫した取組みがなされたこと

○また、モニタリングツアーやタウンマガジンの作成、SNSでの情報拡散を図った大学生向けのワークショップなど、幅広く情報発信に取り組んだこと

○モニタリングツアーの実施により、ツアー企画が商品化され、旅行者の増加や旅行者による情報発信機会の増加が期待できること

などが主な内容でした。

次に、交付金事業全体に対する評価といたしましては、委員皆さまからいただいた意見を総括させ

ていただきますと評価できる点としては、

- パブリックアートの配置やタウンマガジン、イベント、モニタリングツアーなどハード面・ソフト面の取組みを複合的に展開したこと
- アートの活用は、まちづくりの典型的な手法であり、集客力のある久保惣記念美術館を核としてまちづくりすることも理に適っていること
- インバウンド対応への準備として、ホームページ等の多言語化に取り組んだこと

などが、ご意見だったと思います。

一方で、改善するべきであった点としては

- 大阪方面に向けた周知を実施するべきであったこと
- 「観光路線実証実験バス」については、告知方法の見直しや経路の変更、料金設定の柔軟化など、改善策をとるべきであったこと
- 既存の地域資源を活用したブランディング化を図るべきであったこと
- 取組みを知ってもらうための情報発信がまだ弱いこと

などが、ご意見だったと思います。

次に今後の取組みに対するアドバイスとしては、

- 地元団体等と協働するなど、シビックプライドの醸成につながる取組みが必要であること
- 情報の拡散には、SNSが有効であるため、目玉であるパブリックアートをSNSで周知するなど、集客につながるような情報発信をしていただきたいこと
- 他都市との連携により、広範囲で回遊する仕組みをつくるなど、関空から近距離である強みを活かした訪日観光客へのアプローチを進めていただきたいこと

などが、ご意見だったと思います

何かこれにつきまして、追加でご意見がございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

特にないようですので、いただいたご意見を本委員会の答申の中に盛り込んでまいりたいと思います。

【住み慣れた地域で暮らし続けるための拠点づくり事業】

■下村委員長

それでは、2つ目の事業でございます「住み慣れた地域で暮らし続けるための拠点づくり事業」について、評価をしてまいりたいと思います。まず、「平成30年度の取組みに対する評価」について、有効であったか、それとも、有効とは言えなかったのかを評価いただき、併せて、その理由についてご発言いただきたいと思います。

委員の皆様から順にご意見をいただきたいと思いますので、山中委員からお願いいたします。

■山中委員

私の評価としましては、「1. 取り組んだ内容は、有効であった」です。

その理由としましては、少子高齢化や核家族化、老人の独居世帯が増加している昨今において、地

地域の住民同士が助け合う活動を支援する取組みは非常に有意義であったと感じております。また、その事業によって1つ新たな団体が立ち上がり、結果として高齢者雇用に関するKPIについて大幅に増加し、目標を達成したことは大きな成果であったと考えております。

■下村委員長

ありがとうございました。引き続きまして、辻本委員、お願いいたします。

■辻本委員

私の評価としましては、「1. 取り組んだ内容は、有効であった」です。

その理由でございますが、「地域住民同士の助け合い活動」について、補助制度を活用した団体と活用しなかった団体がそれぞれ1団体立ち上がったことは、本取組みによる成果だと考えております。また、一部目標値については、未達成のものもありますが、サービス利用者数が事業開始当初から大幅に上昇しており、地域の困りごとの解決に一定の効果をあげたことが確認できておりますので、評価できるものと考えます。

「デマンド型交通実証運行」については、アンケートの分析やヒアリングを行い、デマンド型交通の有効性や地域ごとのニーズを把握できたことは、今後の交通ネットワーク構築のため、有効な取組みであったと考えております。

■下村委員長

ありがとうございました。引き続きまして、篠原委員、お願いいたします。

■篠原委員

私の評価としましては、「1. 取り組んだ内容は、有効であった」です。

その理由でございますが、地域にとって、住民同士の助け合いの場であるコミュニティの創出は大変意義のあることだと考えております。KPIについて、「サービス利用者数」は目標値249を大きく上回る326まで伸びており、「提供サービス数」は、目標値に達していないものの、伸長しています。高齢者雇用者数については目標値の75を達成していることから、取組み内容は有効であったと考えております。

■下村委員長

ありがとうございました。引き続きまして、小長谷副委員長、お願いいたします。

■小長谷副委員長

私の評価としましては、「1. 取り組んだ内容は、有効であった」です。

その理由でございますが、高齢化時代が到来し、今後需要が急増する助け合いのサービスについて、地域住民を中心とした萌芽的組織化を行い、一定の成果をあげたことを評価しております。また、市民の知恵を活かした取組みにより、コストを節約できたことも評価できると考えております。

次に、シニアの動きはランダムであるため、高齢化社会を迎えると、定時的ルート交通では対応できなくなることから、デマンド型交通に取り組まれたことは評価できると考えております。

■下村委員長

ありがとうございます。

私の評価としましては、「2. 取り組んだ内容は、有効とは言えなかった」です。

KPIが増加していることは確かではありますが、概ね想定内の伸びであったと捉え、「有効とは言えなかった」と評価しております。また、活動団体を組織化する時や活動費用に対して、補助を実施しておられますが、もっと人材育成の部分に焦点をあてた支援をすべきであったと考えております。

なお、このように厳しい評価をしておりますが、活動団体を新規で組織化させることは難しい課題であり、事業担当課が非常に努力されていることは、十分に理解しております。

それでは、次に、「交付金事業全体に対する評価」について、「交付金事業における成果・実績で評価できること」や「交付金事業において、改善すべきであったと考えること」などの意見についてご発言ください。また、今後の取組みに対するアドバイスがある方は、併せてご発言をお願いします。

山中委員、お願いいたします。

■山中委員

本事業については、住民アンケートで地域のニーズを把握し、各種協議会の構成メンバーと情報共有したことで、活動団体の維持や設立について支援する体制が充実した点や新たな活動団体が複数立ち上がり、新規団体設立に向けた情報やノウハウが蓄積された点が評価できると考えております。

改善すべきであったことについては、提供サービス数の拡充や人材確保のための支援に関する取組みが十分でなかったと考えております。NPOや民間事業者、他市の成功事例を積極的に取り入れ、事業につなげていく必要があったと感じております。

今後の取組みに対するアドバイスについては、複数の活動団体が立ち上がりましたが、地域により活動内容や取り組み方が異なると思いますので、各団体の状況を把握し、成功事例の水平展開を図ってはどうかと考えております。デマンド型交通については、昨今、高齢者ドライバーの問題もある中、高齢化社会が進展することを踏まえ、長期的な視点で既存路線バスとの棲み分けを検討し、有効な公共交通を構築していただきたいと考えております。

■下村委員長

ありがとうございました。引き続きまして、辻本委員、お願いいたします。

■辻本委員

本事業については、補助金を活用せず新たに団体が立ち上がったことは、事業の推進により、住民が地域における相互扶助の重要性を認識し、そのことが自主的な団体発足につながった成果だと考えており、評価しております。「デマンド型交通実証事業」については、デマンド型交通のニーズの把握ができたこと、また、有用性が明らかになったことが評価できると考えております。自家用車の利用から公共交通の利用へ転換を図る有効な手段となり得ることが明らかになったのではないかと考えております。

改善すべきであったことについては、平成29年度に住民のニーズに対する調査を実施し、「子育てニーズ」の存在を認識できた時点で、早急に子育てニーズなどに対応した具体的なサービスメニューの開発を行うべきであったと考えております。KPIの提供サービス数は、利用者数とは異なり、サービスメニューの開発を行えば達成することが可能な目標値であるため、団体に対する住民ニーズの認知促進やサービスメニューの具体例の紹介、研修などを行って提供サービスの拡大を図るべきであったと考えております。

今後の取組みに対するアドバイスとしては、住民のニーズを把握できていることから、今回、達成できなかったサービスメニューの開発支援を引き続き行っていくべきであり、その際、地域の年齢構成に応じてニーズに偏りがある可能性があるため、地域ごとの課題などを踏まえたサポートが必要であると考えております。

■下村委員長

ありがとうございました。引き続きまして、篠原委員、お願いいたします。

■篠原委員

本事業については、補助金の創設や協議会の立上げ等の支援を行ったことで、新規団体の設立につながった点を評価しております。また、「協議の場」での呼びかけを契機に、新たに2団体が立ち上がった点も、評価できると考えております。

改善すべきであったことについて、活動内容自体は評価できますが、新たな団体を設立させるための取組みという点では、もう一步踏み込んだ取組みや周知が必要であったと考えております。アンケートなどの取組み以外にも、フォーラムの開催など、団体に参加している方々のさらなる意欲を醸成するような取組みを充実するべきであったと感じております。さらなる周知の徹底、人材の確保、ノウハウの蓄積とそれらの活用が今後の課題だと考えております。

今後の取組みに対するアドバイスとしては、それぞれのコミュニティの構成人数を増やすことよりも、コミュニティは小さくても構わないので、この取組みが水平展開していくことが重要だと考えております。そのためには、この取組みの意義を市が積極的に広報し、市民が安心して生活するためにはコミュニティが必要であることを理解してもらう必要があると考えております。

■下村委員長

ありがとうございます。引き続きまして、小長谷副委員長、お願いいたします。

■小長谷副委員長

本事業について、活動団体が増えた点や事業開始当初に地域ニーズの調査分析を行い、エビデンスに基づいて事業に取り組んだ点、市民の知恵を活かして、予算・コストを節約して効率的な事業展開を図った点が評価できると考えております。

改善すべきであったことについてですが、デマンド型交通は、人口が稠密している地域にこそ適している交通手段であるため、過疎的な地域ではなく、高齢化している人口稠密地域で実施するべきであったと考えます。タクシー業者など地元業者と連携しながら、AI自動運転などのIT化も含めて総合的に展開していくような長期展望が必要と考えております。今後は、ウェブ等の構築・広報やマッチングの支援といった「プラットフォーム型用途の予算」、また、何かあったときのための保険などの「セイフティーネット型用途の予算」などに焦点をあてて、行政が支援を行うべきでないかと感じております。

■下村委員長

ありがとうございます。

私の評価については、補助金を活用して新規設立した活動団体があったことは評価できると考えております。改善すべきであった点や今後のアドバイスですが、地域内での高齢者を中心とした地縁型

自治会を母体とする組織化のみならず、ボランティア団体、子育て組織、自治防災組織など多様な目的を持った活動組織と連携することや、行政による継続的な事業の周知及び支援が必要であると考えております。

それでは、皆様からいただいたご意見を取りまとめたいと思います。

取組みに対する評価としては、5名中4名の委員が「有効であった」という評価でしたので、本委員会としては、「有効であった」を本事業の評価といたします。

その理由を整理いたしますと、

- 少子高齢化や核家族化、老人の独居世帯が増加している昨今において、地域住民同士の助け合いを支援する事は非常に有意義であり、補助制度等をきっかけとして活動団体を2団体発足させることができたこと
- KPIのうち「サービス利用者数」や「高齢者雇用者数」は目標値を達成しており、目標値に達していないものもあるが、大幅に伸長したこと
- デマンド型交通について、アンケートの分析やヒアリングを行い、その有効性や地域ごとのニーズが把握できたことは評価でき、今後の交通ネットワーク構築のため、有効な取組みであること

などが、ご意見だったと思います。

次に交付金事業全体に対する評価といたしましては、委員皆さまからいただいた意見を総括させていただきますと評価できる点としては、

- 補助金を活用して立ち上がった活動団体が1団体あり、複数の団体が積極的に活動できる基礎が出来上がったこと。
- 新規団体設立に向けた情報やノウハウが蓄積されたこと
- デマンド型交通に対するニーズの把握ができ、有用性を明らかにできたこと

などが、ご意見だったと思います。

一方、改善するべきであった点としては

- デマンド型交通は、過疎的な地域だけでなく、人口稠密地域での取組みも必要であったこと
- 子育て支援などに対応した具体的なサービスメニューの開発をもっと積極的に行うべきであったこと
- 団体の提供サービス数の拡充や人材確保のための支援に関する取組みに加えて、それを周知する取組みが必要であったこと

などが、ご意見だったと思います。

次に今後の取組に対するアドバイスとしては、

- 予算措置を含め継続した支援が必要であること
- 事業を立ち上げるだけでなく、活動の意義や活動団体の周知を市として行う必要があること
- 地域の課題を踏まえたきめ細やかな支援が重要であること

などが、ご意見だったと思います

何かこれにつきまして、追加でご意見がございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょ

うか。

特にないようですので、いただいたご意見を本委員会の答申の中に盛り込んでまいりたいと思います。

【新商店街におけるにぎわい創出事業】

■下村委員長

続きまして、3つ目の事業、「新商店街におけるにぎわい創出事業」の評価をさせていただきたいと思います。まず、「平成30年度の取組みに対する評価」について、有効であったか、それとも、有効とは言えなかったのかを評価いただき、併せて、その理由についてご発言いただきたいと思います。

それでは、委員の皆様から順にご意見をいただきたいと思いますので、山中委員からお願いいたします。

■山中委員

私の評価としましては、「1. 取り組んだ内容は、有効であった」です。その理由としましては、イルミネーションや街バル、各種イベント等は、新たな賑わいを創出するという点で非常に効果があったと感じております。ただ、市内での盛り上がりという面では一定の効果があったものの、市外や他府県には広まっていない状況であり、情報発信力の強化や地元特産品等を活用したブランディング化など、まだまだ課題があると思います。

■下村委員長

ありがとうございました。引き続きまして、辻本委員、お願いいたします。

■辻本委員

私の評価としましては、「1. 取り組んだ内容は、有効であった」です。その理由につきましては、KPIで未達成の項目もありますが、イルミネーションや街バル、セミナーなどを開催し、商店街店主等の積極的な参加があったことから、商店街の自立に向けた人材育成面などにおいて、本事業は一定の効果をあげていると考えております。ただし、木楽座ストリートの認知度について、事業所管課は「向上している」と評価していますが、評価の根拠が分りませんので、その定義を明確にする必要があると感じております。

■下村委員長

ありがとうございました。引き続きまして、篠原委員、お願いいたします。

■篠原委員

私の評価としましては、「1. 取り組んだ内容は、有効であった」です。その理由につきましては、街バルについては、前年度より参加店舗数が大きく伸びており、事業を継続している効果が周知につながっていると思われます。他府県からの来訪者数は、目標を達成できておりませんが、計測方法が推計によるものであることも原因であると思います。今後どのように計測していくかが課題ではありますが、継続して開催することで市内外へのアピールにつながり、来訪者数は伸長していくものと考えております。なお、インバウンド対策という点では、インバウンド買物客数が向上した店舗が少なく、今後の課題であると考えております。

■下村委員長

ありがとうございます。引き続きまして、小長谷副委員長、お願いいたします。

■小長谷副委員長

私の評価としましては、「1. 取り組んだ内容は、有効であった」です。先のミュージアムタウンの評価でも申し上げましたが、本事業は、コンパクトシティ政策という方向性に適っており、木楽座とミュージアムタウンをコアとして集客する政策は、適切であると考えております。また、ニュータウンの重要ルートとして脚光をあびている和泉中央線に着目した点がユニークであり、北摂の「ロマンチック街道」や、奈良の「ならまち大通り」等を参考に事業展開すればよいと思います。

■下村委員長

ありがとうございます。

私の評価としましては、「1. 取り組んだ内容は、有効であった」です。新しくできた商店街の事業であり、積極的に取り組んでいただきたいという応援の意味もこめて、有効であったと評価しております。街バルは、商店の育成と同時に、地元としっかり連携してやっていくことが大事であると考えております。本事業は、商店街を自立させることが重要であり、今後の市の役割は、側面的な支援がメインになるなど変化していくと思われまますので、交付金事業の間に、いかに自立のための芽を出しておくかが重要であると考えております。

それでは、次に、「交付金事業全体に対する評価」について、「交付金事業における成果・実績で評価できること」や「交付金事業において、改善すべきであったと考えること」などの意見についてご発言ください。また、今後の取組みに対するアドバイスがある方は、併せてご発言をお願いします。

山中委員お願いいたします。

■山中委員

本事業については、始まったばかりの事業であるため課題はあるものの、商店街に新たな賑わいを創出したという点で、評価できると考えております。一方、インバウンドに対する対応力セミナーや研修は一定の効果があったものの、今後は、インバウンドを誘致するアプローチ策についても検討していただきたいと思います。

改善すべきであったことについては、当エリアは海外の玄関口である関空に近く、インバウンドの集客において大きな可能性を秘めており、SNSの爆発的な発信力を活用すべく、インスタ映えのする施設やアート、体験イベント等のアイデアが必要であると考えております。

今後の取組みに対するアドバイスについては、交付金が終了するなか、周辺の企業からの寄付によりイルミネーションやその他事業を運営することは、継続性の面で難しいと思われまますので、収益事業の育成とクラウドファンディング等の資金調達手段の検討が必要であると感じております。

■下村委員長

ありがとうございました。引き続きまして、辻本委員、お願いいたします。

■辻本委員

本事業については、商店街の自主的な取組みの結果、街バルの参加店舗数が増加したこと、また、インバウンドへの取組みを始めるなど、商店街が主体的に活性化に取り組み姿勢を持ち始めているこ

とが評価できると考えております。

改善すべきであったことについては、インバウンドへの対応を主要な課題としながら、インバウンド関連で実施したのは研修事業のみであり、イルミネーション、街バルなどのイベントとの関連性があいまいであったという点が挙げられます。イベントについては、地域住民を対象にしたもののように見受けられますが、KPIは「他府県からの来訪者」や「インバウンド買物客」を設定していることから、これらをターゲットとした事業計画を策定すべきであったと考えております。

今後の取組みに対するアドバイスですが、イベント事業を実施する場合には、イベント実施後の効果測定が不可欠です。事業担当課の方々は、本事業により「木楽座ストリートの認知度が上がった」と評価しておりますが、その根拠が明示されておられません。イベント実施前後の売上高、来訪者数、HP 閲覧数、認知度の程度、商店主の商店街に対するロイヤルティ、モチベーションの程度などの指標を設定し、効果測定を行いながら進めることができれば、より良い事業展開ができると考えております。

■下村委員長

ありがとうございました。引き続きまして、篠原委員、お願いいたします。

■篠原委員

本事業については、イルミネーションの設置等に継続して取り組んでいることが、街バルの参加店舗数の増加につながっている点を評価できると考えております。

改善すべきであったことについては、アプリについて、さらにユーザーの利便性を向上させることが必要であったと考えております。インバウンド対策については、各店舗の意識を高めることが重要であり、店舗側が、そのメリット等を認知するための仕組みも必要であったと考えております。

今後の取組みについては、事業を継続して開催することで好循環が生まれ、今後も伸ばしていくものと思われませんが、外国人観光客へ情報提供手段の確立が急務であると思います。SNSを活用した発信は有効ですが、何を発信するのかという中身が大事ですので、「和泉市ならではのもの」をいかに確立して発信するのかが、非常に重要であると考えております。

■下村委員長

ありがとうございます。引き続きまして、小長谷副委員長、お願いいたします。

■小長谷副委員長

本事業については、街バルの参加店舗数が増加している点、また、イルミネーションも成功といえる点が評価できると考えております。ただし、近年は、個人宅や各商店でイルミネーションを設置することも多いため、それをうまく活用し、より効果的に事業を実施することやイルミネーション事業自体を地元へ移管することも一つの手法であると考えております。

改善すべき点ですが、現行のKPIは、取組みの効果を適確に測定できる指標になっていないため、計測方法も含め、KPIの再設定が必要であると考えております。例えば、アプリをもっと普及させて、そのユーザーから情報を得る方法も一つの方法であると思います。

次に、今後のアドバイスですが、空間的なブランド化として、コンパクトシティ政策の一環で「歩ける健康都市」を目指し、店舗等でロゴなどを掲げてブランド化を図る、または、BRT等で回遊で

きるようにするなどの検討を行っていただきたいと思います。時間的なブランド化としては、木楽座ストリートとミュージアムタウンの日として、1ヶ月に1回、特別イベントや優待施策をするなどの取組みを検討いただきたいと思います。なお、全ての店舗に協力いただき、一斉に事業を実施できれば、非常に効果が上がります。木楽座ストリートやミュージアムタウンをコンパクトシティ政策の核として進めていただきたいと思います。

■下村委員長

ありがとうございます。

私の評価でございますが、イルミネーションや街バル等を積極的に実施されたことは評価できると思います。しかし、情報発信をどのように行うかが課題であると思います。

次に、改善すべきことや今後の取組みに対するアドバイスですが、インバウンドだけに固執せず、大阪の都心部や周辺他都市、他府県などに情報発信を行うべきではないかと感じております。また、全国的に様々な場所でイルミネーションを活用したまちづくりが実施されており、イルミネーションだけでは、来訪者を増加させることが難しいので、何か別のものと組み合わせた取組みの検討が必要だと思えます。

それでは、皆様からいただいたご意見を取りまとめたいと思います。

取組みに対する評価としては、5名全員が「有効であった」という評価でしたので、本委員会としては、「有効であった」を本事業の評価といたします。

その理由を整理いたしますと、

- 街バルの参加店舗数が増加するなど、事業を継続している効果が現れたこと
- イルミネーションや街バル、各種イベント等は、新たな賑わいを創出するという点で有効であること。
- 商店街の店主等が積極的にセミナーに参加するなど、商店街の自立に向けた人材育成に効果が見られたこと
- インバウンド対策という点では、インバウンド買物客数が向上した店舗が少なく、課題が残っていること。

などが主な内容でした。

次に交付金事業全体に対する評価といたしましては、委員皆さまからいただいた意見を総括させていただきますと評価できる点としては、

- 街バルの成績がよく、イルミネーションの設置などに継続して取り組んだことで、参加店舗数の増加につながったこと
- 商店街が自主的にインバウンドの取り込みを検討し始めるなど、主体的に活性化に取り組む姿勢を持ち始めていること

などが、ご意見だったと思えます。

一方で、改善するべきであった点としては

- インバウンドについて、外国人観光客への対応のための研修だけでなく、外国人観光客を呼び込むための情報発信などが必要であったこと。また、店舗のメリットやノウハウの周知が十分

でなかったこと。

○イルミネーションや街バルなどのイベントと、インバウンド対応との関連性があいまいであったこと。

○SNSの爆発的な発信力を活用すべく、インスタ映えのする施設やアート、体験イベント等のアイデアが必要であったこと。

などが、ご意見だったと思います。

次に今後の取組みに対するアドバイスとしては、

○交付金事業終了後も、商店街が自立して、今後もイベント等を継続できるよう、収益事業の育成やクラウドファンディング等の資金調達手段について検討いただきたい。

○しっかりとした効果検証を実施し、次の事業に結び付けていくべき。

などが、ご意見だったと思います。

他に追加でご意見がございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

特にないようですので、本日いただいたご意見を取りまとめ、答申の中に盛り込んでまいりたいと思います。

なお、答申（案）の作成については、委員長の私に一任していただき、後日、メール等で内容をご確認していただいたうえで、最終的に市長に答申してまいりたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

それでは、本委員会における事業評価は、これにて終了します。本年度は、これまで和泉市が取り組んできた地方創生推進交付金事業が一定の区切りを迎えるため、交付金事業全体としての評価を行い、評価できることや改善すべきであったことなどについて、各委員から幅広いご意見をいただくことができました。

地方創生に向けては、交付金事業に限らず、今後も継続的に地域特性を活かした取組みを進めることが必要でありますので、評価対象になっていない事業や施策の見直し、新規事業の立ち上げを検討する際は、本日の委員会の評価を十分に参考にいただき、和泉市の活性化に向けて、効果的な事業実施につなげていただくことを期待いたします。

結びになりますが、委員の皆さまにおかれましては、会議の進行にご協力賜り、まことにありがとうございました。

それでは、この後の進行については、事務局の方でお願いします。

3 閉会

司会者（政策企画室 山崎室長）

下村委員長、ありがとうございました。

また、委員の皆さまにおかれましては、本日は、長時間にわたり事業の評価を行っていただきまして、ありがとうございました。答申作成につきましては、答申（案）を委員長に取りまとめていただいた後、委員皆様にメール等でご連絡を差し上げ、ご確認いただいたうえで、市長あて答申をさせていただきたいと存じます。併せまして、本日の会議録につきましても、同様の手続で確定したいと存じま

すので、お忙しいところ恐縮でございますが、ご協力賜りますよう、よろしくお願いいたします。

それでは、閉会にあたり、副市長の藤原から、ひとことご挨拶申し上げます。

□藤原副市長

(副市長挨拶)

□司会者（政策企画室 山崎室長）

ありがとうございました。それでは、これもちまして、和泉市外部評価委員会を閉会いたします。
委員の皆様、長時間に渡り誠にありがとうございました。